

平成 20 年 8 月 20 日

各 位

会 社 名 S B S ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鎌 田 正 彦
 (コード番号：2384)
 問い合わせ先 執行役員財務部長 山 下 泰 博
 兼 経 理 部 長
 電 話 番 号 03-3829-2222

平成 20 年 12 月期 中間連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 20 年 2 月 28 日付で公表いたしました「平成 20 年 12 月期中間連結業績予想」を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 平成 20 年 12 月期中間連結業績予想の修正 (平成 20 年 1 月 1 日～平成 20 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	65,000	1,400	2,000	1,200
今回予想 (B)	71,467	1,690	2,138	△28
増減額 (B-A)	+6,467	+290	+138	△ 1,228
増減率 (%)	+9.9	+20.7	+6.9	—
(ご参考) 前中間実績 (平成 19 年 12 月期)	66,264	1,306	1,925	718

2. 修正の理由

当中間期におきまして、当社グループの主要セグメントである物流事業は、原油高による燃料費の高騰に見舞われ、さらには個人消費にも停滞感が強まるなど、逆風にさらされました。

こうした事業環境の中、当社グループは、サービスの高度化や積極的な営業展開を通じて受注のさらなる拡大を図ると同時に、業務改善活動の拡大による業務の効率化、支店の統廃合や物流施設の入れ替えなどによって一層のコスト削減に努めました。

また、金融事業では、当初下期に計画していた竣工済みの物流施設の流動化案件が想定より早く進捗したため、約 4,800 百万円の売上を計上いたしました。

その結果、売上高、営業利益、経常利益におきましては、当初の予想を上回る見通しとなりました。

しかしながら、中間純利益につきましては、固定資産売却による特別利益を 705 百万円計上したものの、当社および子会社の保有する投資有価証券の評価損 914 百万円を計上、また、業績回復の遅れている一部グループ会社において減損処理を 842 百万円実施したこと等により、特別損失を 1,892 百万円計上した結果、当初の予想を大幅に下回り 28 百万円の損失の見通しとなりました。

なお、通期の連結業績予想につきましては、下期に予定している保有不動産の売却等の諸施策を実施することにより達成可能と判断しておりますので変更ありません。

以上